

川が育てた豊かな文化  
紫川とここにいる私

【公開講座】 北九大文化資源調査隊 (北九州市立大学文学部)



東アジア文化都市  
北九州2020-21  
CULTURE CITY OF EAST ASIA in KITAKYUSHU

2021年12月15日(水)  
18時~20時30分 北九州市立大学本館 A101



# 川が育てた豊かな文化 紫川とここにいる私

## 佐藤 浩司

日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会幹事 北九州市立大学非常勤講師

【プロフィール】1955年福岡県田川市生まれ、九州大学文学部史学科卒業。1979年北九州市教育文化事業団（現・市芸術文化振興財団）入職。埋蔵文化財調査室で開発事業に伴う城野遺跡をはじめ市内の数多くの遺跡の発掘調査に携わり、2015年4月室長に就任後、2020年3月退職。2014年から日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会の幹事として九州各地の文化財保護にも携わる。



### 『北方周辺の弥生時代遺跡探訪・人々の暮らしと紫川』

【講演内容】北九州市立大学キャンパスとその周辺に広がる弥生時代遺跡群。そのそばを流れる紫川と個々の遺跡は集落の形成や発展とも大きく関わりながら、この地域の歴史を大地に刻みつけて

いる。発掘調査で見つかった遺構や遺物から、当時の人々の暮らしぶりや考え方を私たち現代人とも照らし合わせ、本地域の弥生時代社会像を描き出す。



## 野井 英明

北九州市立大学名誉教授・理学博士・地質学（古環境学）

【プロフィール】1955年愛媛県生まれ。九州大学理学部卒業。1991年北九州大学（現北九州市立大学）に入職し2021年退職。大学院時代を含めて、古環境（過去の環境）を地質学的手法によって研究してきた。北九州市立大学就職後は、人間活動と古環境の関係についても研究範囲を広げ、その成果の教育への応用にも取り組んでいる。

### 『古代人の生活と自然の関わりを地質学的視点で考える』

【講演内容】日本では、豪雨による災害が毎年のように発生し、地球温暖化の影響が具体的に現れた現象として世界的にも憂慮されている。豪雨のような自然の猛威は災害をもたらすことがある一方で、自然の恵みを与えてくれることもあ

る。このような関係は考古的時代では特に強く表れ、そのため、遺跡は自然の猛威と強い関わりをもって、分布し立地していると考えられている。今回は、北九大周辺の遺跡について、このような視点から考えてみる。



## 竹川 大介

北九州市立大学文学部教授・理学博士・人類学

【プロフィール】名古屋市生まれ、京都大学理学部卒業、理学研究科博士後期課程修了。1995年国立民族学博物館 COE 特別研究員。1996年より北九州大学（現・北九州市立大学）在職。生態環境と人の暮らしの関わりに焦点を当て、沖縄をはじめアジア太平洋をフィールドに海洋文化の人類学研究にたずさわる。ゼミである九州フィールドワーク研究会（野研）を中心に、全学の学生たちとともに各地の地域研究やアートと人類学をコラボレートした創作活動に数多く取り組んでいる。



### 『龍が住んでいた街の今』

【講演内容】北九州市立大学の北方キャンパスからモノレールの駅に向かう道には小さな段差がある。これは河岸段丘のなごりだ。かつて紫川は北方一帯を蛇行しまるで龍のよう

に暴れまわり、ここには大きな湿地帯があった。その名残は今でも見ることができる。昔と今をつなげる身近な街の散歩の、道案内をいたしましょう。

●本公開講座は、対面とオンラインのどちらかでどなたでも無料で参加できます。参加を希望される方は事前のお申し込みが必要です。右下のQRコードを読み取り、必要事項を入力してください。

●オンラインでの視聴を希望する方には、後日、公開講座のURLをご登録のメールアドレスに送信いたします。QRコードが読み取れない方や入力できない方は、氏名とメールアドレスをお伝え下さい。【問合せ】北九州市立大学文学部比較文化学科資料室 kitabunnet@gmail.com 093-964-4133

2021年12月15日(水)  
18時～20時30分 北九州市立大学本館 A101



東アジア文化都市 北九州2020-21  
CULTURE CITY OF EAST ASIA IN KITAKYUSHU  
主催：北九大文化資源調査隊(北九州市立大学文学部)  
東アジア文化都市北九州2020-2021フレンドシップ事業